スポーツボランティアプログラム

「伊豆大島 御神火ライド」報告

2018/09/08

第2回 伊豆大島 御神火ライド

9月8日（土）に東京都大島町にて「第2回 伊豆大島 御神火ライド」が開催され、本学のスポーツボランティアプログラムの学生が６名、運営ボランティアとして参加しました。本イベントは、三原山など島全域がジオパークであるダイナミックな自然や美しい海岸線が広がる伊豆大島を自転車で１周し、各エイドでは島ならではのグルメを堪能するという観光サイクリングイベントです。タイムを競わずに、地元住民との触れあいや地域の魅力を体感してもらうことを目的としているそうです。

首都大生が伊豆大島でボランティア活動を行うのは、6月のトライアスロン大会に続いて2回目になりますが、役場の職員の方で学生を覚えてくださっている方もおられて、島外からの大学生ボランティアを温かく受け入れてくださいました。

活動の前に･･･

朝5時に大型客船で島に到着しましたが、オリエンテーション開始は9時30分からとのことで、少し待機時間がありました。そこで、近くの御神火温泉で身支度を整え、朝食を済ませて、活動に備えました。

活動内容

首都大生は、メイン会場にて、ゴールした選手に対して、「完走賞・記念品渡し」と「アンケート記入の呼びかけ」を行う役割で、2つのグループに分かれて活動しました。

「完走賞・記念品渡し」係は、選手のナンバーカードを確認し、名前の入った完走賞と記念品を渡しました。「お疲れ様でした」という声かけに加えて、「雨は大丈夫でしたか？コースはいかがでしたか？」など、積極的にお声かけし、選手の方も嬉しそうに返答してくださり、会話が弾んでいる様子が印象的でした。

通常、このようなイベントでは、完走して疲れた後のアンケート記入はなかなか協力いただくことが難しいのかなと想像していましたが、担当学生が笑顔で、大きな声で呼びかけたこともあり、多くの方がアンケートに記入してくださり、驚くほどの数が集まりました。

参加した学生の声

- 参加者が実際に自転車で島内をまわる姿を見られなかったのは残念だったが、完走後の声を聞くことができたのは良かった。
- 最初のうちは、あまり円滑に行うことができなかったが、チーム内で役割分担をするとスムーズに渡すことができた。困っていた時に役員の方が手伝ってくださったり、運営に関わる人同士で協力しあうことが重要だと気付いた。
- 地元住民を巻き込んでの大きなイベントの開催の難しさも感じた。地域においてスポーツイベントを開催する意義は何か、また、どう地域を上手く巻き込んでいくのか、様々な活動を通して考えていきたい。

雨が降ったりやんだりのあいにくの天候ではありましたが、参加者の方はとても楽しんでおられて、満足されている様子で、ボランティアの学生たちにも「ありがとう」と声をかけてくださいました。まだ2回目のイベントということもあり、運営方法が固まっていない点もありましたが、その中でも学生たちはスタッフの方々と協力しながら臨機応変に動いていました。

今回の活動は、本学は東京都が設置した公立大学として、同じ東京都にある島である伊豆大島を、スポーツイベントを通して、応援したい、盛り上げたいという目的で参加させていただきました。地元の方と共に活動したり、夜には宿で、地元の漁師の方などからもお話を伺うことができ、伊豆大島の良さや課題なども伺うことができました。そういったお話からも、学生たちは大島の魅力をより一層感じられたと同時に、より地域を盛り上げるために、地域にとってのイベントのあり方などについても考えることができたようです。

地元住民ではない私たちが、ボランティアとして、どのように島に関わっていけるか、これからもさらに考えを深めながら、より島での活動を発展させていきたいと思います。

朝のオリエンテーション

フィニッシュゲート

後夜祭で振る舞われた“くさや”を学生たちもいただきました

地元の漁師の方との交流